

給食だより 1月

令和8年1月13日
江戸川区立上小岩小学校
校長 宮本知司
栄養士 高橋真樹子

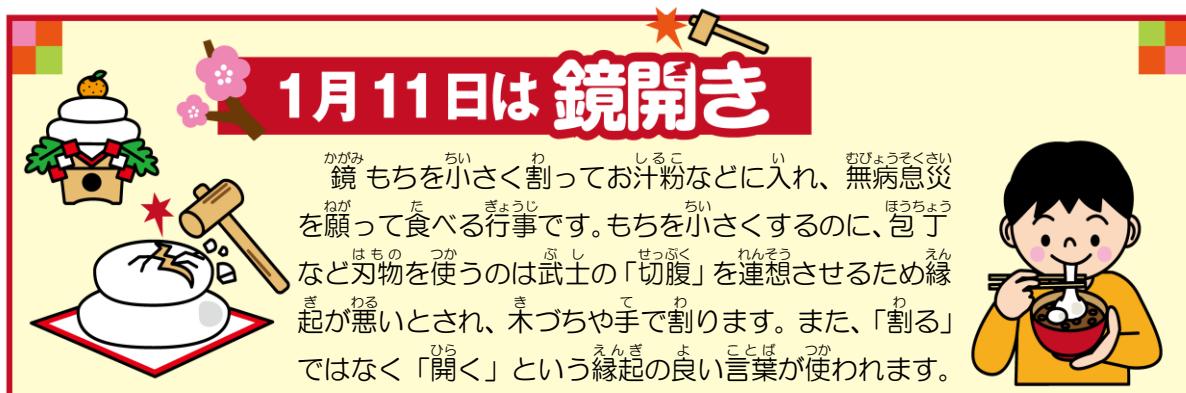
あけましておめでとうございます。新しい年を迎える三学期が始まりました。気持ちを新たに、今年も給食室一同、子ども達が楽しみになるような美味しい安全な給食提供を行います。

1月24日～30日は全国学校給食週間です。現代の給食は栄養バランスが整っており、献立内容も豊富なため食を通して様々な文化や歴史について知ることができます。給食を食べることができるのは決して当たり前なことではありません。全国学校給食週間を通して、学校給食の意義や役割などを皆さんに知ってもらい、学校給食について改めて考える機会にしてほしいです。



お年玉はもちだった!?

お正月は、普段より日本文化を感じる機会が多くたったのではないでしょうか。さて、子どもたちにとって、お正月の楽しみといえばお年玉。新年を祝って、大人から子どもへお小遣いを渡す風習です。もともとは、お正月の「歳神様(年神様)」にお供えした「もち」を、歳神様からの贈り物として分け与えたことが始まりとされ、「年玉」とは「歳神様の魂」を意味します。





1/24～1/30は
「全国学校給食週間」です

にほん がつこうきゅうしょく

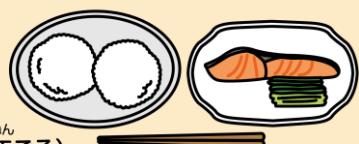
日本の学校給食のあゆみ

がつこうきゅうしょく はじ

学校給食の始まり

明治22（1889）年、山形県の私立忠愛小学校で、貧しい子どもたちへ食事を提供したのが始まりとされています。この学校は大智寺というお寺の中にあり、お坊さんたちが家々を回ってお経を唱え、いただいたお金や食べ物を使って食事を用意していました。大正12（1923）年には、子どもたちの栄養状態を改善するための方法として、学校給食が国から奨励されるなど、各地へ広がりましたが、戦争による食料不足で中止せざるを得なくなってしまいました。

おにぎり
やさかな
焼き魚
つけもの
漬物
めいじ
(明治22年ごろ)



ごしき
五色ごはん
えいよう
しる
栄養みそ汁
たいしょう
(大正12年ごろ)



しえんぶつし
がつこうきゅうしょく
さいかい

支援物資による学校給食の再開

戦後、子どもたちの栄養状態の悪化を心配する声が高まり、昭和21（1946）年12月24日にLARA（アジア救援公認団体）から給食用物資の寄贈を受けて、翌1月に学校給食が再開されました。当初は12月24日を「学校給食感謝の日」としていましたが、その後、冬休みと重ならない1月24日からの1週間を「全国学校給食週間」とすることになりました。

ミルク

トマトシチュー
(昭和22年ごろ)



コッペパン・ミルク

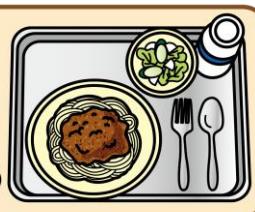
クジラの竜田揚げ
せん切りキャベツ
(昭和25～30年ごろ)



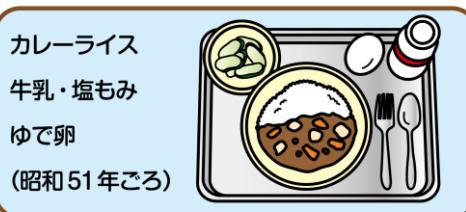
バラエティー豊かな献立内容に

昭和29（1954）年に「学校給食法」が成立したことで、実施体制が法的に整い、学校給食は教育活動として位置付けられるようになりました。主食はパンが中心でしたが、昭和51年に米飯（ご飯）が正式に導入されると、カレーライスや炊き込みご飯などが登場し、献立内容が充実してきました。

ミートスパゲッティ
牛乳
フレンチサラダ
(昭和40～50年ごろ)



カレーライス
牛乳・塩もみ
ゆで卵
(昭和51年ごろ)



このように、学校給食の内容は時代とともに変化していますが、いつの時代も変わらずに、「子どもたちが食えることなく、おいしく食べて、健やかに成長できるように」といった願いが込められています。現代では、大人になっても自分自身で考えて健康な食生活を続けることができるよう、学校給食は「教材」としての役割も担っています。